１１．その他中心市街地の活性化のために必要な事項

［1］基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

（1）個別事業等に関連した実践的・試行的活動の内容・結果等

実践的・試行的な活動は、これから雲南市商工会及びまちづくり会社により進めることしている。

［2］都市計画等との調和等

（1）基本構想、都市計画、市町村マスタープラン、その他法令に基づく種々の計画との整合性について

①雲南市第 2 次総合振興計画との整合について

総合振興計画の「商業の振興」において、施策の基本方針に、「中心市街地を中心として、それぞれの地域の特性や役割に応じた地域商業の活性化を図る。」としている。

②雲南市都市計画マスタープランとの整合について

「地域別まちづくりの方針（木次・三刀屋地域)」において、以下の方針と整合させている。

・中心市街地エリア内における交通要所の接続性向上を図り、木次・三刀屋地域の一体強化を目指す。
・中心市街地エリアに公共施設の集約を図るとともに、国道 54 号沿線を中心とした商業業務等の誘導、整備に努める。
・斐伊川とその支川は、水とみどりのネットワークとして良好な親水空間形成をめざし、中心市街地における憩いとうるおいの場として整備、維持管理を促進する。

［3］その他の事項

（1）雲南市の地域活性化の取組み

本市は、地方創生に向けて、以下の地域活性化の取組みを進めている。

■第 2 次雲南市総合計画（平成 27 年度～平成 36 年度）

雲南市の急激な人口減少は、少子化と子育て世代の社会減が大きな理由となっている。このため、持続可能なまちづくりに向け、若者の人口流出を抑制し、移住・交流人口の増加により、次世代の担い手を確保していく必要がある。

そのため、行政としては、子育て環境の整備、質の高い教育の提供、雇用や住宅施策など魅力あるまちづくりに対して大胆な施策を展開し、若者の流出を防ぎ、転入人口の増加を誘導することで長期的な出生率の向上を図る。さらに、「人づくり」や「若者誘致」を進め、雲南市の若者と全国から集まった若者がいきいきと課題解決にチャレンジするまちを目指す。

■まち・ひと・しごと創生雲南市総合戦略

雲南市総合戦略は、地域・団体・メディア代表、公募委員などで組織された総合計画策定委員会でまとめあげられた、丁寧で熱い思いのこもった第 2 次雲南市総合計画（H27-H36）を基本として、本総合計画から地方創生につながる事業や成果目標を盛り込み、総合計画策

定委員会での審議や市議会説明を経て、「まち・ひと・しごと創生　雲南市総合戦略」を策定した。

本戦略では、人口の社会増や地域課題の解決に向けた「子どもチャレンジ」「若者チャレンジ」「大人チャレンジ」の連鎖を切れ間なく創り出し、市民一人ひとりがプラチナのように輝く「プラチナ社会」の実現に向けた必要な施策・事業の基本的な考え方を示している。

「まち・ひと・しごと創生」の重点戦略

「まち・ひと・しごと創生」のリーディング事業として、「子どもから大人までのチャレンジ」を中心としたプロジェクトに取り組む。これを雲南市の重点戦略として位置づけ、高齢化率が国のおよそ 25 年先をいく「課題先進地」である雲南市が、「課題解決先進地」の実現への先導的役割を果たす。

《重点戦略》

「子ども×若者×大人チャレンジの連鎖」による持続可能なまちづくり

～若者誘致と人口の社会増へ～

《総合戦略のねらい》

「ひとの創生」「しごとの創生」「まちの創生」の好循環による持続可能なまちづくり。それを支えるのはすべて「ひと」であり、「ひとの創生」こそが地方創生の基礎だと考える。それによる地域課題の解決に向けたチャレンジから生まれる「しごとの創生」。そして多様な人材や働き方の展開から生まれる、市民・地域（事業者）・行政の「総働」による「まちの創生」。この好循環により、市民一人ひとりが誇りをもち、プラチナのように光輝く「プラチナ社会」の実現をめざす。

中心市街地活性化において、総合計画及び総合戦略の方針を推進すると考えた場合、総合戦略の下記のプロジェクトが大きく関わると考えられる。

プロジェクト 3：課題解決型人材の誘致・育成による若者チャレンジ創出への挑戦

多分野において、課題解決型人材の誘致・育成、地域課題とのマッチング、ビジネス展開支援を推進する「中間支援組織」を育成・確保し、市内外の志ある若者の育ち合いの促進と課題解決型ビジネスモデルの創出に取組む。

プロジェクト 4：産業振興センターの機能強化による新たな雇用創出への挑戦

起業支援や事業承継サポートを行う専門スタッフの配置や、販路開拓、ＩＴ、デザイン等プロのアドバイザーによる伴走支援制度を構築し、事業拡大、企業・起業誘致による新たな雇用創出に取組む。

中心市街地との関係

・若者の起業や事業継承の受け皿になり、挑戦の場を提供する。

ＳＡＫＵＲＡマルシェ整備事業、ビジネスプランコンテスト事業、創業者育成セミナー事業など

・新たな雇用創出の場を提供する。

ＳＡＫＵＲＡマルシェ整備事業、民間商業施設整備事業、ビジネスホテル整備事業
空き家空き店舗再生事業など